

昨年、起業した人に聞く 2011年の抱負

経済不況からようやく回復の兆しも見え始めた2010年。さらなる飛躍を目指し、昨年、起業した6人に起業に至るまでの経緯と2011年の抱負を聞いた。



才能に光を当てるために

森井あす香さん

昨年は、「人生が大きく変わった年。考えていたことが具体的な形になった」。

美術の正規教育を受けていない芸術家の作品、アウトサイダーアート。その中でも障害を持った人たちの作品のライセンシングを手掛ける事業を昨年半ばに立ち上げた。作品を広く紹介し、企業が商品にデザインとして使う際のアイデアなども提案している。

大学で美術を学び、卒業後、特別支援学校で障害を持つ生徒に絵を教え、就労支援にも尽力した。しかし、このままでは何も生まないと感じていた。

「日本では、彼らを社会の一員にするにはどうすればいいかを考えます。でも才能があるのなら、社会が彼らに合わせればいい。アーティストってそうだと思う」

大学生のころに見たアウトサイ

ダーアートに衝撃を受けた。「自由。恐ろしく自分に正直で、多くの人が日常生活で抑えている部分を丸出ししている」

もつと作品を見たいと、アウトサイダーアート発祥の地、ヨーロッパの精神科病院や美術館を巡った。その後、日本の学校現場では、才能あるアーティストが障害ゆえに低賃金で働く現状を目の当たりにした。この現状を変えたい、アートを使得って何かできないかと思い、2008年9月にアウトサイダーアートのメッカ、ニューヨークに留学した。

全米の障害者の作品を扱う場所をくまなく回り、ネットワークも広げた。当初は起業という考え方はなかったが、やりたいことを実現するにはそれが一番近い方法だと、多くの人たちとの出会いを経て考え始めた。ナイチンゲールの「自己犠牲だけの貢献は持続性がない。そこにしっかりとした経済基盤がなければ無力だ」という言葉も頭に浮かんだ。

苦勞は一切感じていない。「好きなことなので、それにかかわっている人に会うのは楽しい」。



ハーレムの図書館で行われた、障害を持ったアーティストのエキシビジョンでの様子。

2011年は、まだまだ知られていないジャンルであるアウトサイダーアートを多くの人に知ってもらうために尽力したいと語る。

「彼らのアートと彼ら自身に光を当てたい。障害ではなく、才能に注目しましょう、そういう動きに参加しましょうよと訴えていきたいです」



北海道札幌市出身。京都教育大学卒業。京都市立鳴滝特別支援学校で美術講師を務める。2010年半ばに「Altruart, Inc.」を設立、CEOを務めている。ブログ「アメリカぶるぶるアート観光」(<http://ameblo.jp/altru-art/>)で活動内容をつづっている。手にしているのはKeith Paviaさんの作品。協力・Fountain Gallery (www.fountaingallerynyc.com)

Altruart, Inc.
www.altruart.org
TEL: 347-989-5005
asuka@altruart.org